

宗教・スピリチュアリティを追究する ための「新たな連携・協働」の試み

Masami Takahashi
Northeastern Illinois University
Chicago, IL

日本心理学会第85回大会
公募シンポジウム

宗教学
哲学
神学
倫理学...

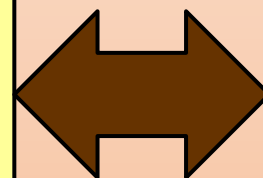
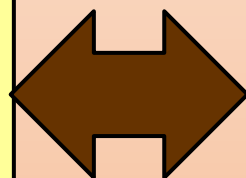
概念
(思想)

心理学
老年学
社会学...

実証
(データ)

宗教界
看護
介護
福祉
教育...

現場
(実践)



概念

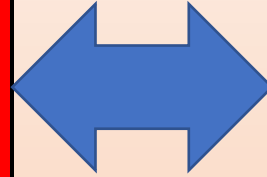
(理論)

人間の営みの大事さ
(藤井)
高齢化社会の影響
(大橋)

実証

(データ)

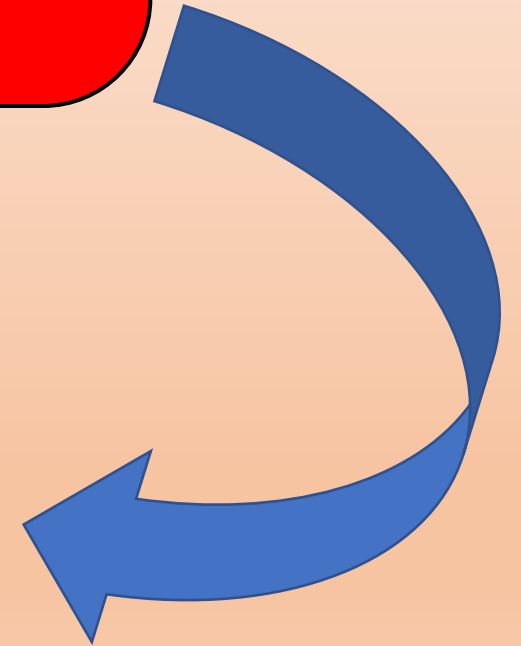
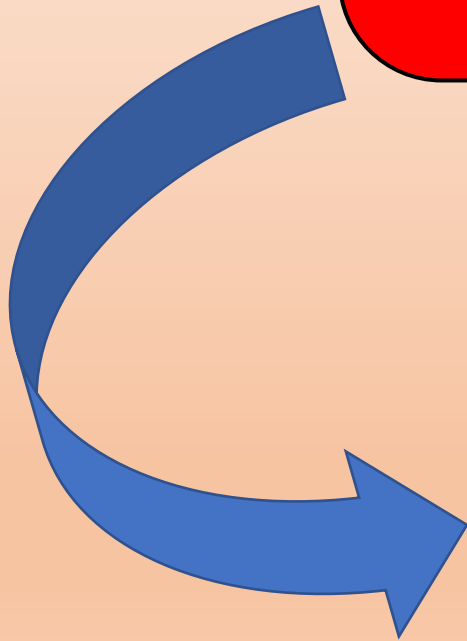
文化・言葉の壁
(ムスリン)

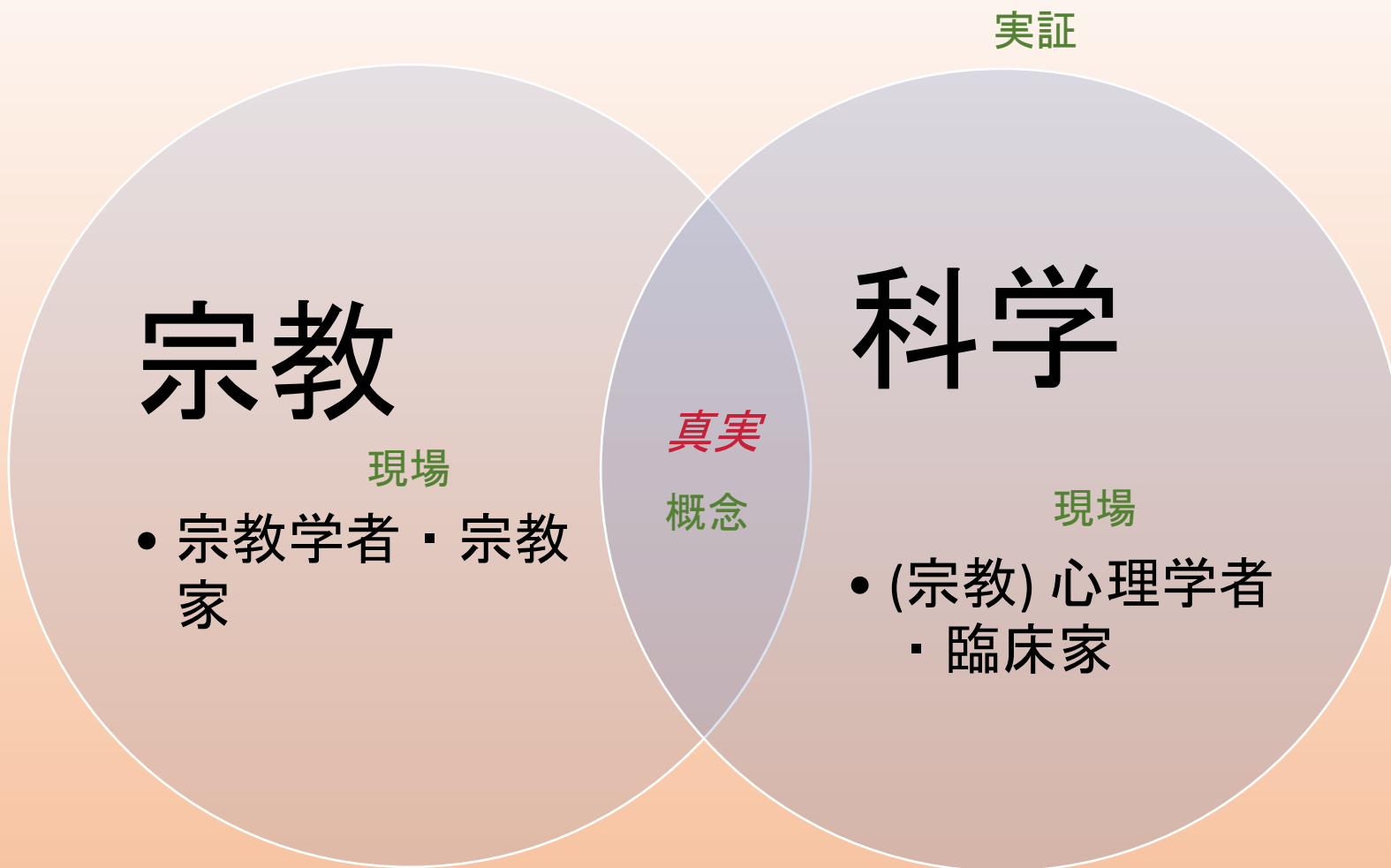


現場

(応用・実践)

(大学を含む) 教育・多分野との連携 (西脇)





「理解しようとするのではなく、理解するために信じよ」

「科学とは理論とデータ収集に基づいて組織的な知識体系を確立することである」

宗教学

心理学（実証）

概念・理論

宗教学

精神分析・深層心理

真実の探究・理解

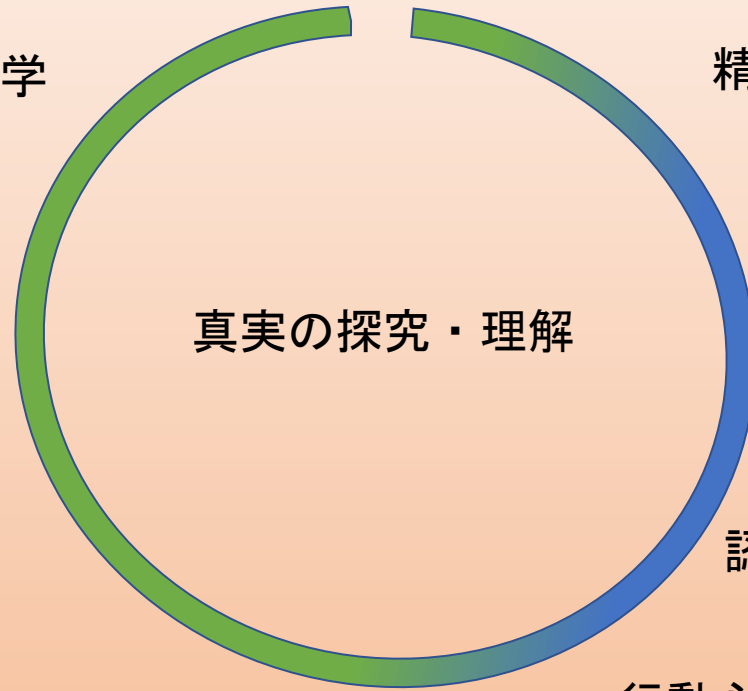
ピアジェ心理学

認知心理学

データ・観察

行動心理学・生物心理学

宗教心理学



- 藤井

- なぜ宗教なのか
- 連携の問題点: 1) 怪しい?、2) 人気のなさ、3) 方法論 (質的 v. 量的)

還元主義?

- 大橋

- 高齢化に伴う宗教への関心
- 尺度・定義の明確さと実証研究の結果と概念のすり合わせ

例外の米国

独り歩きの可能性

- 西脇

- 研究の知見
- 教育実践の連携 (スピ・ケア等)

知見共有の常識

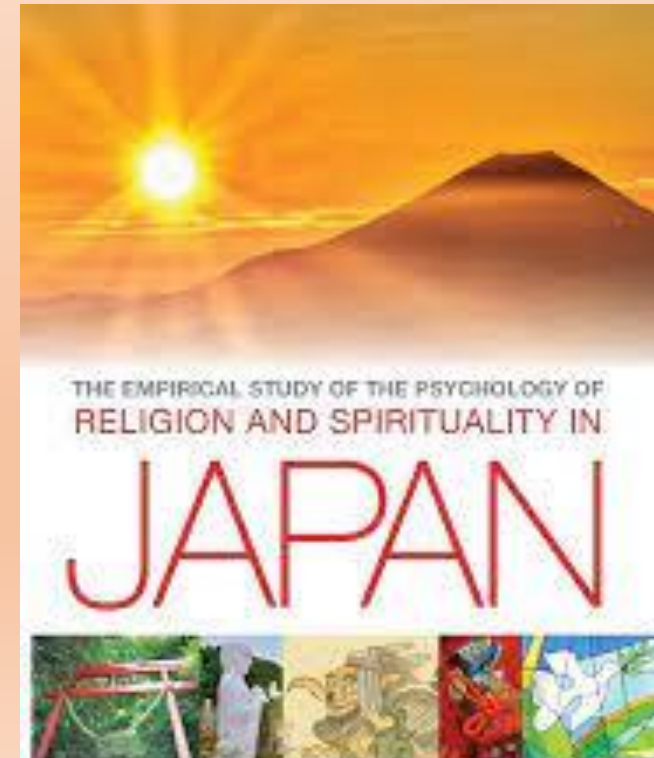
日本でのやり易さ

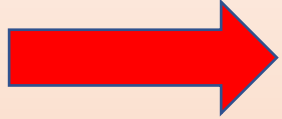
スピリチュアリティの例 (寿司)

- ムスリン

- 文化・言葉の壁 (例: God, the God, gods)
- 日本人論 (自文化中心主義)

諸刃の剣





- 1) 論文上での概念定義を明確に示す（一人歩きさせない）
- 2) 一般的な定義との乖離を避ける（例：スピリチュアリティ）
- 3) 概念（操作定義）の共通理解を強制的にではなく柔軟にする（例：下位尺度等を用いた変速スライド方式の尺度の利用）

ユダヤーキリスト教的文脈の脱構築：
宗教性とスピリチュアリティのプロジェクト

概念構成班

実証心理班

脳科学班

神道

仏教

キリスト教

宗教学

幼児・
児童期

青年期
(アイデンティティ)

成人・
老年期

健康

死生観

データ
分析